

明治学院歴史資料館 ニュースレター No.7

明治学院歴史資料館発行
2016年7月

目次

- ・明治学院と礼拝堂の歴史
- ・ヘボン生誕200年記念 トークイベント 報告記
「日本を開いた辞書-ヘボン博士と日本語-」をふりかえって
- ・歴史資料館年間活動報告
- ・寄贈資料案内
- ・明治学院歴史資料館資料集第10集②刊行案内

明治学院と礼拝堂の歴史

今年100年を迎える白金チャペルは、ウィリアム・M・ヴォーリズ的设计であり、大空間を木組のシザース(ハサミ型)トラスで支える大胆な構造が特徴である。

明治学院のチャペルは150年を超える歴史の中で、何回かその姿と場所をかえてきた。

＜神奈川と横浜時代＞1859(安政6)～1880(明治13)年

ヘボンとS.R. ブラウンは来日後すぐに住居としていた神奈川の成仏寺本堂で礼拝を始めると、神奈川在住のプロテスタントが教派にかかわらず参集し、そこではリードオルガンが奏でられた。そして成仏寺に出入りする日本人には漢訳聖書が配られた。

1862年ヘボン夫妻が横浜居留地39番に移転し、邸内には施療所・学校・礼拝堂を兼ねた建物が作られ、6年後には改築されて収容人数は150名にまで広がった。ここでは始業前にヘボン博士が日本語礼拝を行い、数学・歴史・地理・スペリング・文法・購読・英作文・聖書等を教えた。

横浜海岸教会(日本初のプロテスタント教会)の日曜礼拝、横浜ユニオンチャーチ(外国人向けの教会)の礼拝もここで行われた。

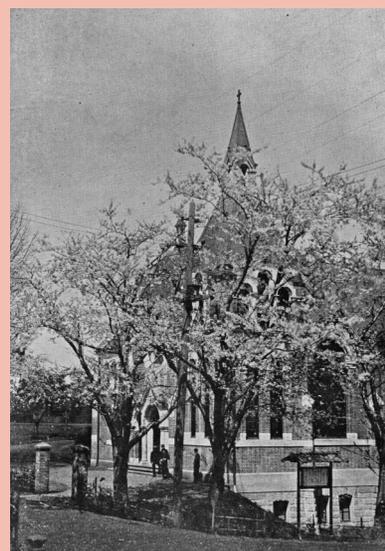
＜築地居留地時代＞1877(明治10)年～

東京築地のミッションの土地には、1872年に外国人が共同で礼拝を行うユニオンチャペルが完成した。隣接して建つ「東京一致神学校」は各派の神学校を集約し、1877年にできた学校である。ヘボン塾の後継「バラ学校」も1880年築地に移転して「築地大学校」となり、さらに1883年には「東京一致英和学校」となるが、同校敷地も同一ブロック内にあり、礼拝はユニオンチャペルで行われたと考えられる。

＜白金キャンパスの成立＞1887(明治20)年～

各前身校を集約した白金の明治学院には、キャンパス中央に400人収容の講堂をもつ「サンダム館」が建てられ、礼拝はここで行われた。続いて1903年にはリヒャルト・ゼールの設計によるゴシック風のステンドグラスが特徴的な石造りの「ミラー記念礼拝堂」が美しい姿を現す。しかし、相次いだ地震は礼拝堂を損壊してしまった。

代わって建築されたヴォーリズ設計の現在の礼拝堂は、ミラー記念礼拝堂の石材を下部に利用している。最初の奏楽はメーソン&ハムリン社の大型リードオルガン(港区指定有形文化財)を使用した。1966年にはドイツ・ヴァルカー社製パイプオルガン、2009年からは現在のヘンク・ファン・エーケン製パイプオルガンが使用されている。



ミラー記念礼拝堂

松岡良樹(歴史資料館研究調査員)

2015年はヘボン博士生誕200年を記念した多くのイベントが明治学院で行われました。歴史資料館では毎年秋に開催している講演会を明治学院大学と共催しトークイベントを行いました。

ヘボン生誕200年記念 トークイベント

「日本を開いた辞書ーヘボン博士と日本語ー」をふりかえって



昨年、2015年は明治学院初代総理J. C. ヘボン博士の生誕200年でした。記念行事の一つとして、トークイベントが12月3日(木)に行われました。

ヘボン博士は1815年3月13日にペンシルベニア州ミルトンで誕生しました。そして、1859年来日後の活躍は広く知られているところです。33年間に渡る日本滞在の活動は大きく、伝道、施療活動・医療の普及、近代教育の確立、辞書編纂、聖書翻訳に分けることができるでしょう(もちろんその他にも数々の重要な業績を挙げることができます)。

この幅広い話題にすべて触れるには到底およばないため、トークイベントでは、自身が日ごろ調査を行っている『和英語林集成』、日本語、辞書といったことがらをキーワードにすることをしました。

トークイベントに至る道のりは、楽しいながらもなかなかハードで濃密なものでした。とても有意義で新鮮かつ刺激的な時間でもあったので、トークイベントまでのプロセスと当日の流れについて、少しばかり記したいと思います。

今回のお話を頂戴したのは6月に入って間もなくの頃だったでしょうか。その後、歴史資料館、広報の皆さんをはじめ、何をどのようにといった企画そのものの話し合いからスタートしました。直接お目にかかっていた話し合い、またメールでのやり取りの中、次第に方向性が定まり、一つ一つ進めていきました。堅苦しくならないようにトークイベントの形式の採用や、また朝日新聞に「週刊ヘボン博士の辞書」として興味深い見出し語にエピソードを交えた広告を出すことが決まりました(明治学院大学のfacebookに挙がっていますので御覧ください)。

トークイベントの内容そのもの、また構成や展

開をはじめとした数次にわたる打ち合わせの後、いよいよ白金キャンパスのアートホールでの当日を迎えました。学生、校友、一般参加の皆様をはじめ、学院長、学長、役員、教員、職員の方々にもお運びいただきました。会場では関連書籍やパネルなどの展示も行われたり、横浜キャンパスとも中継が結ばれたりする万全の状況の中、前半が始まりました。

ふんだんな画像提供をいただいたパワーポイントを使用して、ヘボン博士の生涯や『和英語林集成』の解説を中心に講義形式で行いました。特に、ヘボン博士が、日本語に対していかに敏感で緻密だったのか、その営為がローマ字のみならず後続の国語辞書や英和・和英辞書に継承されていたのか、そして当時の日本語を知ることのできる第一級の日本語研究資料であることを話題としました。

後半は、いよいよ5名の学生の皆さんに登壇いただき、クイズ形式でローマ字の綴り方やことばの定義、またカタカナ語に対してカタカナを使わないで説明するといった設問に解答してもらいました。それぞれに理由を話してもらいましたが、的を射た解答も多く(もちろん事前に問題は知ら



されていません)、あらたな発見もありました。あわせて、会場の方々のシャープな解答や説明にも支えられ、終始、明るく和やかな雰囲気の中、進んで行きました。開始前まで予測だにし得ない展開を心配しましたが杞憂で終わりました。時間を多少オーバーしたものの自画自賛ではありますが、半年間の積み重ねが実ったひと時でもありました。

今回の準備とトークイベントを通して、自身の中を整理することができました。あわせて、どのようなものに関心を持っておいでなのか、また自身が見過ごしていることについても知ることができました。そして、何よりも、日々あれこれと資料と格闘している中で、分かったことや気づいたことや考えたことをお伝えできるまたとない機会にもなりました。

この場を借りまして、ヘボン博士や『和英語林集成』と対峙する機会をくださり、的確なアドバ

イスと、素晴らしいアイデアや提案をくださった関係者の方々にはあらためてお礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

最後に、とてもとても先のことではありますが、いずれ生誕250年の節目はかならず訪れます。その時に、多少でも参考としてもらえるような研究を目指していきたいと思っております。

木村 一

(明治学院歴史資料館研究員・東洋大学文学部准教授)

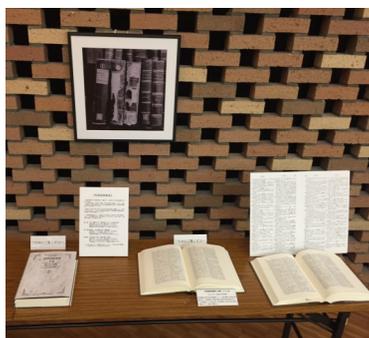


当日の展示

講演会にあわせ、歴史資料館では貴重資料である『和英語林集成』の初版本や『和英語林集成』初版の草稿が書かれているヘボン博士の手稿、日本語(国語)辞典の前身である「節用集」、パネルの展示を行いました。講演終了後に木村先生が例に挙げていた言葉を実際に引くことが出来るよう、『和英語林集成』の復刻版を展示し、『和英語林集成』の世界に深く触れて頂きました。

「節用集」

日本語(国語)辞典の前身の辞典。15世紀頃に“字書”として成立し、時代に合わせて改良された。江戸時代に発展し、昭和初期まで使われた。



明治学院歴史資料館・明治学院大学共催

『日本を開いた辞書 - ヘボン博士と日本語 -』

2015年12月3日(木) 17:00~18:30

明治学院大学

白金キャンパス アートホール

【講演者】

木村 一

明治学院歴史資料館研究員・東洋大学文学部准教授

【講演内容】

- ヘボン博士の功績
- 『和英語林集成』とは
- 『和英語林集成』各版
- 『和英語林集成』の展開
- 『雅俗幼学新書』
- 日本を開いた辞書



2015年度活動報告

4月 特別展示 明治学院入学式の変遷 開催

明治学院高等学校新1年生フィールドワーク協力

当館展示パネルに沿った課題を展開。生徒は展示室を見学し、課題に取り組みながら、明治学院の歴史について学びました。

5月 企画展「明治学院日本はじめて物語 ヘボン博士編」開催

第一弾はヘボン博士が関わる日本ではじめての出来事の特集。幕末から明治を過ごしたヘボン博士は、キリスト教伝道だけでなく、日本の近代化にも影響する多くの功績を残しました。西洋点眼目薬やヘボン式ローマ字、西洋義足などのはじまりについて紹介しました。

明治学院日本はじめて物語 ヘボン博士編

- ・ 民衆を救ったはじめての西洋点眼目薬
- ・ 「近代男女共学」のさきがけ ヘボン塾
- ・ 日本語の第四の表記 ヘボン式ローマ字
- ・ ヘボン博士の手術と西洋義足のはじめて ほか

明治学院高等学校PTA広報委員取材協力

6月 全国大学史資料協議会東日本本部会主催

「学生たちの戦前・戦中・戦後」展示会への出展。

「明治学院新聞 1949年2月15日号」を出展しました。

全国大学史資料協議会東日本本部会2015年度総会出席(於：早稲田大学)

第1回歴史資料館委員会開催

臨時開館(キリスト教学校教育同盟加盟校高校教員説明会・大学保証人総会)

7月 ニュースレターNo.6 刊行

文学部芸術学科授業協力

「視聴覚教育メディア論A」担当 三河内彰子先生の学芸員課程授業協力を実施。履修学生に対し、学内の文化財の見学と展示室開設の経緯の説明を行いました。終了後、学生からは多くの質問が出て、とても活発な授業でした。

特別展示「卒業生本郷正嘉氏の戦病死遺書」開催

当初9月30日までの展示期間を12月末まで延長。本郷正嘉氏のご令甥で、長い間大切に遺品を預かり保管されておられた、佐藤直樹様にもご来場いただきました。

明治学院中学校オープンキャンパス展示協力

8月 地下倉庫内所蔵資料調査

故瀬川和雄様宅へ寄贈資料受取

全国大学史資料協議会 研修会参加(於：明治大学)

大学オープンキャンパス展示協力

臨時開館(白金校舎オープンキャンパス)

9月 明治学院中学校白金キャンパス見学

明治学院中学1年生に明治学院の歴史や文化財についてパワーポイントによるレクチャーを行いました。

瑞聖寺・横浜外国人墓地の調査・撮影

第5回 学園アーカイブセミナー 参加(於：立教大学)



明治学院新聞
1949年2月15日号



展示を見る佐藤直樹氏

10月 全国大学史資料協議会2015年度総会ならびに全国研究会参加(於：東北大学・東北学院大学)

第2回歴史資料館委員会開催

臨時開館(創立記念礼拝・校友のつどい)

11月 故一色虎児様宅寄贈資料受取

東京文化財ウィーク(1日～3日)

今年は期間中は延べ2000人という例年より多くの方にご来場頂きました。この期間のみ一般公開される記念館2階大会議室にて、リードオルガン(2014年・港区指定文化財指定)の修理記録や島崎藤村の特別パネル展示を開催。休憩できるスペースを用意し、当時の様子に思いを馳せ、ゆっくり見学していただきました。



歴史資料館展示室、当日の様子



記念館2階 リードオルガン展示パネル



記念館2階 島崎藤村記念パネル

12月 講演会「日本を開いた辞書ーヘボン博士と日本語ー」開催(明治学院大学共催)

木村一研究員による講演会。社会人だけでなく、在学生が多数参加し、『和英語林集成』に収められている言葉やローマ字の意味を学びました。また、『和英語林集成』についての展示パネルや初版(ロンドン版)、ヘボンの手稿、「節用集」の実物展示を行い、より深い『和英語林集成』の世界に触れていただきました。報告記(P2-3)にて紹介。

1月 企画展「明治学院日本はじめて物語 創設者と先駆者たち編」開催

第2弾では学術・文化をテーマとし、ヘボン博士だけではなく、明治学院創立に携わったブラウン博士、フルベッキ博士、フォールズ博士のそれぞれが関わる日本ではじめての出来事を紹介。関連資料としてヘボン博士たちが当時使用していた教科書『Wa and Ga』や『Colloquial Japanese』などを展示しております。

明治学院はじめて物語 創設者と先駆者たち編

- ・国内初の新聞はヘボン邸での出会いから
- ・著作権(出版権)成立のはじめて
- ・横浜初の気象観測と日本研究学会Asiatic Society
- ・日本最初の女性英語教師 牧野よし(1843-1930)
- ・世界初の指紋研究者 フォールズ博士
- ・日本最初の盲人用特殊教育教科書
- ・はじめての日本語会話書“Colloquial Japanese”
- ・ネイティブの発音をはじめて記載した英和辞書 - 薩摩辞書
- ・フルベッキの手引きで蠟型電胎法による活字が製作される

関連資料

- ・『Handbook of English-Japanese Etymology』
- ・『Prendergast's Mastery System, Adapted to the Study of Japanese or English』
- ・『A Synopsis of All the Conjugations of the Japanese Verbs,
with Explanatory Text and Practical Application』 ほか



“Colloquial Japanese”

第3回歴史資料館委員会 開催

2月 同窓会埼玉支部 講演会
テーマ「明治学院の古き建物と資料館」
講演者 松岡良樹(歴史資料館研究調査員)

3月 明治学院歴史資料館資料集第10集②
『ウィリアム・グリフィスと米国長老教会女性海外伝道協会』 刊行
昨年に刊行した①に続き、本号ではグリフィスが寄稿した記事を紹介。
執筆者解説(P8)。

臨時開館(卒業式・白金校舎オープンキャンパス)

全国大学史資料協議会東日本部会 第99回研究会出席(於：明治大学)

歴史資料館HPリニューアルしました。
新たに“Web展示室”をつくりました。

明治学院高等学校・明治学院大学卒業式

卒業式に出席された卒業生・白金キャンパスを訪れた
保証人の方々にも来館いただき、明治学院の歴史に触
れていただきました。

【統計】

資料提供・レファレンス件数 49件
来館資料閲覧件数 5件
展示室総来館者数(概算)7100人

資料提供・取材協力

株式会社朝日新聞東京本社
一般財団法人日本聖書協会 聖書図書館
いのちのことば社フォレストブックス
江戸東京たてもの園
株式会社サンポスト
株式会社第一学習社
株式会社知性社
株式会社フラミンゴ・ビュー・カンパニー
関西学院大学大学院神学研究科
神田外語大学 日本研究所
公益財団法人
横浜市ふるさと歴史財団 横浜開港資料館
札幌女性史研究会
株式会社CBCテレビ 生活情報部
首都大学東京
全国大学史資料協議会
タイポグラフィ学会
株式会社TBSテレビ「ひるおび！」
株式会社TBSビジョン
東京都江戸東京博物館

同志社大学神学研究科
豊島区立雑司が谷旧宣教師館
長崎県大村市役所市史編さん室
日本キリスト教会上田教会
日本福祉大学附属図書館
フェリス女学院資料室
フェリス女学院150年史編纂委員会
山口市教育委員会
山口市歴史民俗資料館
Pusan National University
明治学院大学文学部
明治学院大学社会学部
明治学院学院長室
明治学院大学総合企画室(広報担当)
明治学院大学総合企画室(地域連携推進担当)
明治学院大学宗教部
明治学院同窓会情報委員会
明治学院同窓会静岡県西部支部
明治学院高等学校PTA広報委員会



寄贈資料紹介

秋元茂雄牧師の資料をご令孫である秋元直茂様からご寄贈いただきました。

秋元茂雄

韓国伝道において日本基督教会伝道局から最初に派遣された牧師。

1873年 栃木県那須黒羽町生まれ。

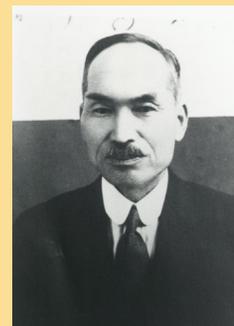
1898年に明治学院神学部入学し、井深梶之助や植村正久などに学ぶ。文部省訓令12号問題の影響による苦難の時代であったが、1902年に卒業。1904年に按手札を受けて日本基督教会の牧師となった。そして、日本基督教会伝道局から依頼を受け、韓国釜山に赴任。しかし、時を同じくして始まった日露戦争により、帰国を余儀なくされた。しばらく熊本で伝道に勤しみ、日露戦争が終わり落ち着きを取り戻した1910年に再び韓国に赴任。

釜山での伝道活動の甲斐があり、1914年釜山教会の献堂式を行う運びとなった。

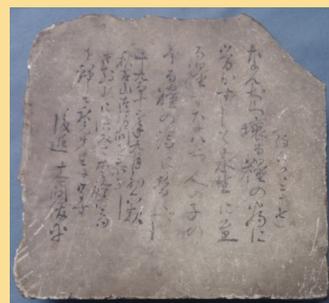
この小箱は記念に作られたものである。螺鈿細工が施されており、蓋を開けると釜山日本基督教会伝道25周年を記念して秋元氏に贈られたものであることがわかる。

また、大理石は秋吉台を訪れた秋元牧師に本間俊平先生が贈ったものである。大理石には約翰傳福音書第6章27節が書かれている。

このほかに秋元牧師は文書伝道にも尽力した。創刊に関わった『鎮西教報』、編集に携わった『愛之友』、主幹となった『基督之福音』もご寄贈いただいた。



秋元茂雄牧師



釜山日本基督教会25周年記念品(左・中央)大理石(右)

ご寄贈頂きました資料の一部をご紹介します。ご寄贈頂きました方々へ感謝いたします。

- 一色 義子 様 一色虎児様 関係資料
- 大平 聡 様 『戦時下女学校の学徒勤労働員』宮城学院
- 木村 一 様 『季刊 悠久』143号
- 瀬川 義雄 様 瀬川和雄様 所蔵資料一式
- 芹川 哲世 様 『神奈川 文学散歩』『東京 文学散歩』
共に二松学舎大学文学部国文学科編
- 手代木俊一 様 「明治学院とキリスト教音楽」
REED ORGAN RESEARCH No. 8
- 土井 英明 様 『エッセイ杉の風』2010年秋号(創刊号)他
- 新倉 勢子 様 『ヴィットリア・コロナのための素描』新倉俊一著
- 波田野節子 様 『李光洙 - 韓国近代文学の祖と「親日」の烙印』波田野節子著
- 明治学院高等学校より 明治学院写真キャンバス 21点
- 他大学・学校・資料館・博物館より 資料集・ニュースレター・年史類

寄贈のお願い

明治学院歴史資料館では本学院の歴史に関する資料を収集しております。皆様のお手元に資料や情報がございましたらご連絡ください。宜しく願いいたします。

ウィリアム・グリフィスと
米国長老教会女性海外伝道協会

The Woman's Foreign Missionary Society of the Presbyterian Church

William Elliot Griffis

2015年3月に刊行した明治学院歴史資料館資料集第10集①『バラ学校を支えた二人の女性 —ミセス・バラとミス・マーシュの書簡—』に続き、本書も明治学院の設立母体の一つである米国長老教会の中に設立された女性海外伝道協会(The Woman's Foreign Missionary Society of the Presbyterian Church)の活動に着目し、同協会発行の子ども向け機関誌 *Children's Work for Children* に掲載されたウィリアム・グリフィス(William Elliot Griffis)による日本紹介記事を訳出した。

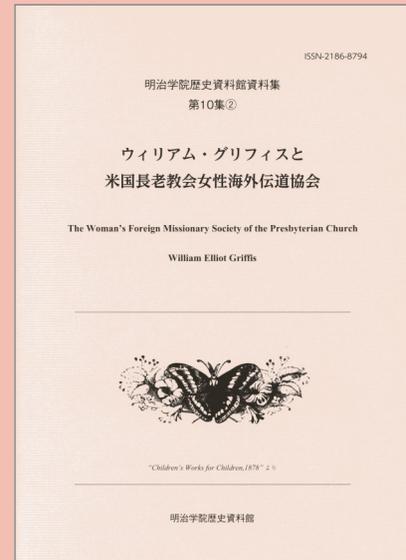
グリフィスは、1870(明治3)年に来日し、福井藩の藩校明倫校や東京大学の前身である大学南校で教鞭をとった。1874(明治7)年に帰国した後は、牧師となり、日本に関する多くの著作を残した。*The Mikado's Empire*(1876)は特に有名である。また、フルベッキ、ヘボン、ブラウンの伝記著者として、明治学院との関係は深い。

本書で翻訳を試みたグリフィスの記事は、1876年から1882年発行の *Children's Work for Children* に掲載されたもので、まさに *The Mikado's Empire* の出版と同じ時期にスタートしている。*The Mikado's Empire* が大人向けの書物であったのに対して、*Children's Work for Children* に掲載された読み物は子どもを対象に書かれている。よって、文章は平易である。また、アメリカとの比較などを用いて、日本のユニークさを解りやすく説明している。さらに、記事には版画の挿絵が常に添えられており、それを解説する形で、視覚的にもインパクトのある文章が綴られている。

グリフィスは日本古来の伝統文化や芸術を高く評価し、それらが西欧文化に取って代わられることを危惧していた。「日本人は年々古い習慣を捨て去り、新しいものを取り入れているので、彼らがより良い習慣を選択できるよう、希望し、祈り、手を貸そうではないか。日本人は絵のような美しい物や習慣の多くをすでに打ち捨てているが、それらのあるものは捨てる必要がなかったのかもしれない。もし日本人が邪悪で穢れた憎むべき心の罪や行いや物だけを捨て、美しい習慣を維持したならば、なんと喜ばしいことであろうか！」といった記述は、その心情をよく表している。

グリフィスは、しばしば記事の最後に、日本の伝道活動や宣教師の様子に触れている。グリフィスによってもたらされる興味深い日本の情報は、そこで活動する宣教師たちの姿にアメリカの読者が思いを馳せるのを容易にしたことは想像に難くない。

訳者：齋藤元子(歴史資料館研究調査員)



2016年3月刊行
定価：600円(税込)

明治学院歴史資料館
ニュースレターNo. 7

発行者 明治学院 歴史資料館

発行日 2016年7月31日

電話 03-5421-5170

〒108-8636

東京都港区白金台1-2-37

E-mail

shiryokan@mguad.meijigakuin.ac.jp

ホームページ

http://shiryokan.meijigakuin.jp/

2016年度 歴史資料館委員・スタッフ

【明治学院歴史資料館委員会】

委員長 長谷川 一・歴史資料館長(文学部教授)

委員 秋月 望・図書館長(国際学部教授)

佐藤 公(心理学部准教授)

秋山智一郎(法人事務局長)

岡村 淑美(明治学院高等学校教諭)

播本秀史(文学部教授)

植木 献(教養教育センター准教授)

鈴木直子(図書館資料管理課長)

青野由美(明治学院東村山高等学校教諭)

【歴史資料館】

研究員 鈴木範久 辻 直人 木村 一

研究調査員 松岡良樹 齋藤元子 加藤拓未

事務局 桑折美智代 事務スタッフ 松原友紀子 岡安圭子